夏秋きゅうり新規栽培者向け【一歩先行く作業のポイント　5月】

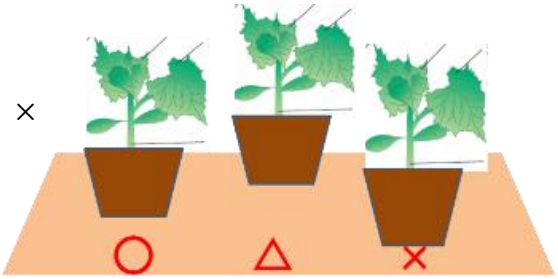
◎ 定植の基礎

○ 準備

・ 活着に適したほ場の条件は、元肥の施用が完了し、適度な水分があり、根の生育適温(20～23℃)に近い地温であることです。
・ そのために定植の 7～10 日前までにマルチをして地温を上げ、必要に応じてかん水を行います。
・ 定植日の数日前から苗を外気に慣らしておくことで、定植後の生育の停滞を防ぐことができます。
・ 定植の約1時間前までに育苗ポットへ温かい水でかん水を行い、根鉢を十分に湿らせておきます。

○ 植付けの深さ

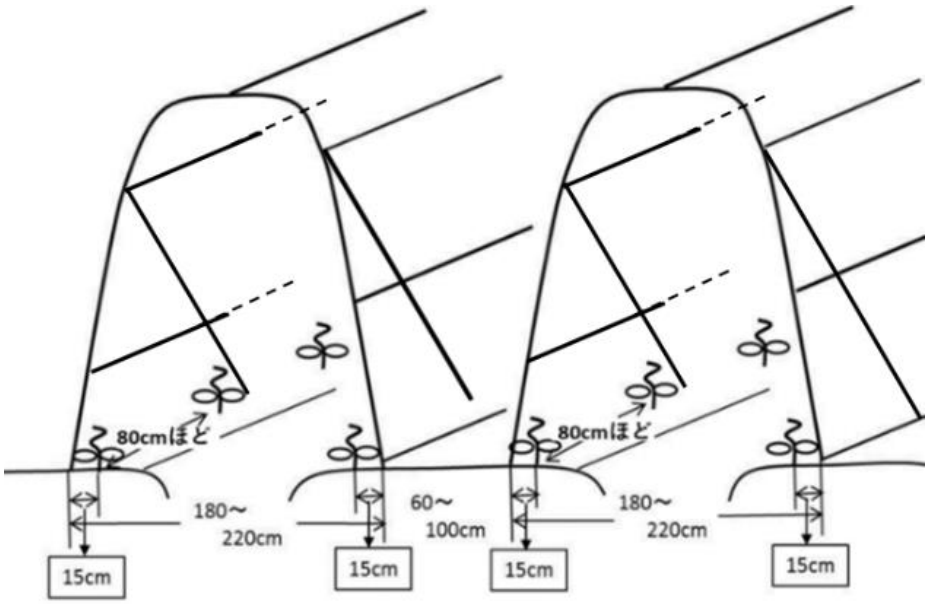
① 植付け後に落ち着いた状態で、うね面と同じ高さになるのがベストです ○
② 高すぎると鉢が乾燥し、根付きが悪くなります △
③ 低すぎると窪みができて水が溜まりやすくなります ×
また、接ぎ木部分が地面に近いと自根発生の原因になります ×



①　②　③

○ アーチパイプ等の設置

・図を参考にアーチパイプ、ネットを設置します。
・ハウス栽培の場合は、ハウスの間口に応じてアーチ間の距離を調整します。
・ネットは緩みの無いようしっかりと固定する。また、筋交いを入れると強風時等でも安定します。

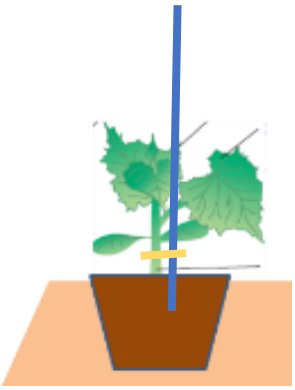


◎ 定植後の管理

○ 添え木の設置

きゅうりの茎や葉は折れやすいため、定植後はこまめに誘引します。

「ダンポール」や「割りばし」等で添え木をすると、真っすぐに誘引でき、株の揺れも少なくなるため、活着がよくなります。



←ネットと添え木（ダンポール）でこまめに誘引しているほ場の様子

○ 株元かん水と主枝の下段の整理

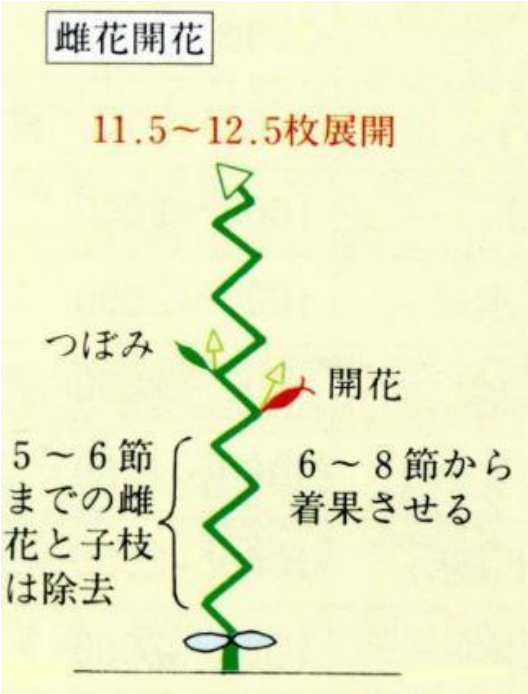


図 ときわ研究場資料より

・定植して 1 週間程度は根が根鉢から外へ伸びにくいため、株元が乾いて萎れないように、天候に応じてこまめに株元へかん水を行います。

・活着後（本葉7～8枚展開時）はかん水をやや控えめとして、根張りを促進させます。

・5～6節まで（マルチ面から 30cm の高さまで）の雌花と子づる（子枝）は除去します。

・草勢に応じ着果位置を決定するが、生育が順調な場合は主枝の6～8節から着果させます。

・草勢が弱い場合（活着が不良な場合）は、さらに摘果位置を高くし、9節以降から着果させます。

・花（雄・雌花）の開花節位が 4 節程度と低い場合、活着（生育）不良となるため、株元かん水や薄い液肥などを与え、草勢を強くします。